

加納宣康（監）

本多通孝（編）

外科専門医受験のための演習問題と解説 第2集

天野 篤

順大大学院教授・心臓血管外科学

われわれが専門医を取得したころの知識習得方法は、主として臨床の現場で先輩医師の教を素直に聞き入れて、疑問に感じることや患者さんの容態が思うように改善しない場合に教科書を開くという手続きだった。その上で、所属学会雑誌、海外の専門領域雑誌を読んで、日頃の診療、地方会での症例報告、総会での発表に励み、現場と学会の場で打たれ強くなっていることが実際の執刀医になるための必要条件で、この点に関しては、それほど施設間格差がなかったように感じている。さらに外科認定医（当時）取得に際しての試験は2人の試験官による口頭試験だけだったので、系統的な学習はしなくても抄録集の作成が完了すれば試験の合格は手中に収めたも同然だったように思う。

しかし、1990年ごろからの情報伝達形式の進化によって、外科医の修得すべき知識も増加してきた。さらに2000年以降、インターネットとPC環境の普及・進化に伴う情報処理の加速は最新知識の公平な取得を可能にした。以前には地方の病院勤務では購読して送ってもらわなければ読めないような海外の雑誌が電

子書籍として簡単に読めるようになって、YouTubeなどの動画環境の向上により、静止画からイメージを膨らませて行ってきた手術技術も、世界の第一線レベルでの実際が見られるようになった。さらには低侵襲化による鏡視下手術の方法が普及したり、医療安全への一層の配慮などが外科医の世界でもいろいろなことを大きく変えたように思う。

またそのような中で始まった初期臨床研修医制度、今真っ只中にある専門医制度の改編など、古き良き時代と一変して、若手医師にとって「みんなで渡れば怖くない」では済まされない自己責任が問われる専門医取得時代に入ったといえよう。しかし、中身の伴った専門医を待っているのは他ならない患者さんたちであり、一定以上の知識と経験を備えていなければ医療安全を損ない、患者さんとその家族だけでなく、医療チームさえも巻き添えにしかねない。

そのような中で、効率よく問題解決型の取り組みやすい形式で構成された本書は誠にタイムリーな参考書であると思う。著者らが試験問題の解決法で最も重視しているのが、伝承や経験に基づく古い外科医体質で

なく、科学的なエビデンスに基づく方法であることは明白で、設問の回答を導くだけで数多くのエビデンス論文に記載されたエッセンスを取り入れていくことが可能である。若手の先生方の学習法として、定型的な外科治療の原点まで振り返ることも可能だし、患者管理に明日から役立つベッドサイドの知識として問題解決を応用することも可能である。おそらく、この問題集を繰り返して用いることで、今後数年に関しては専門医試験に合格したと同時に、次の専門医候補医師をカンファレンスや手術・術後管理の現場で指導していくことが可能であろう。

今後、可能であれば書籍としての問題集にとどまらずに、携帯端末のアプリとして活用可能な提供を検討してもらえると継続的に改編された知識習得も可能になるかと思う。監修・編集の加納先生と本多先生にご一考を期待するところである。

●B5/頁 264/2017 年

定価：本体 5,000 円＋税

[ISBN978-4-260-03045-8]

医学書院 刊